

MySQL 5.5.27 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加と変更

- **重要な変更:** [YEAR\(2\)](#) データタイプは問題があるため非推奨となる。[YEAR\(2\)](#) のサポートは今後リリースされる MySQL で削除される。詳細については、[11.3.4 項「YEAR\(2\) Limitations and Migrating to YEAR\(4\)」](#)を参照。
- 平文のクライアント認証プラグイン `mysql_clear_password` は、クライアント側で入力されたパスワードをハッシュ化せずにそのままサーバで受け取ることを要求する認証方式に使用される。パスワードは平文で送信されるため、ネットワーク上でパスワードが漏えいしないように、このプラグインは SSL 接続など安全な接続のコンテキストで使用する必要がある。このプラグインの不注意な使い方を避けるために、現在はクライアントで明示的な有効化が必要になった。有効にする方法は複数ある。
 - `LIBMYSQL_ENABLE_CLEARTEXT_PLUGIN` 環境変数を `1`、`Y`、または `y` で始まる値に設定する。この方法ではすべてのクライアント接続のプラグインが有効になる。
 - `mysql`、`mysqladmin`、`mysqslap` の各クライアントプログラムでは、起動ごとにプラグインを有効にする `--enable-plaintext-plugin` オプションがサポートされる。
 - C API 関数の `mysql_options()` では、接続ごとにプラグインを有効にする `MYSQL_ENABLE_CLEARTEXT_PLUGIN` オプションがサポートされる。また、`libmysqlclient` を使用してオプションファイルを読み込むプログラムであれば、クライアントライブラリによって読み込まれるオプショングループに `enable-plaintext-plugin` オプションを追加してプラグインを有効にできる。

修正されたバグ

- *InnoDB*: 競合状態により、*InnoDB* テーブルに対する `DROP TABLE` ステートメント中で表明エラーが発生する可能性があった。*InnoDB* の内部関数には、テーブルス

- ペースが欠落しているかどうかを正しく判定しないものや、テーブルスペースが欠落している場合にエラーコードを正しく処理しないものがあった (Bug #14251529)。
- **InnoDB:** **InnoDB** テーブルから行が削除され、同じプライマリー値を持つ別の行が再挿入された場合に、待機しなければならない同時トランザクションが行のロックを試行して成功する可能性があった。この問題は、ロックする側の **SELECT** で **WHERE** 句が使用され、セカンダリインデックスを使用してインデックススキャンが実行される場合に発生していた (Bug #14100254、Bug #65389)。
 - **InnoDB:** **DROP DATABASE** によるデータベースの削除中に **ALTER TABLE ... RENAME** を使用して **InnoDB** テーブルを他のデータベースに移動した場合に、表明が発生する可能性があった (Bug #13982017)。
 - **InnoDB:** **KILL** ステートメントを使用してクエリを終了すると、エラーログで以下のような不要なメッセージが出力される可能性があった。

```
[ERROR] Got error -1 when reading table table_name
```


(Bug #13933132)
 - **InnoDB:** トリガがある **InnoDB** テーブルで **innodb autoinc lock mode=1** が設定されている場合、2つのセッションから同時にテーブルへの挿入が実行されると自動増分値の間隔が空いてしまう可能性があった。自動増分値の並び方がタイミングによって異なるため、レプリケーションを使用するシステムでデータが不整合になった (Bug #12752572、Bug #61579)。
 - **パーティショニング:** パーティションドテーブルに範囲外の値を挿入すると、常に正しく処理されなかった。これは、MySQL 5.5.23 で発生した退化であった (Bug #14005441、Bug #65587)。
 - **レプリケーション:** イベントがマスタダンプスレッドの **max allowed packet** のサイズより長いと、レプリケーションが失敗した。これは、多数の大きい行を更新するとき、行ベースのレプリケーションを使用するとき発生する可能性があった。

この修正の一環として新しいサーバオプション `--slave-max-allowed-packet` が追加され、スレーブ SQL と I/O のスレッドで `max_allowed_packet` のサイズ大きくできるようになる。現在、マスタからスレーブに送信されるパケットのサイズはこの

値（サーバシステム変数 `slave_max_allowed_packet` の値として使用できる）に対してのみチェックされ、`max_allowed_packet` の値に対してはチェックされなくなっている（Bug #12400221、Bug #60926）。

- **レプリケーション:** `UPDATE ... WHERE primary key column = constant LIMIT 1` などのステートメントは、実際には安全であるにもかかわらず、ステートメントベースログに対してアンセーフというフラグが設定される。このようなステートメントが大量に実行されると、この誤った警告が多数ログに記録されるためにディスクスペースが使い果たされる可能性があった。この事態を回避するために、警告抑止のメカニズムが導入されている。この警告抑止は以下のように動作する。最近 50 件の `ER_BINLOG_UNSAFE_STATEMENT` 警告が、50 秒間に 50 回より多く生成されると、警告抑止が有効になる。警告抑止が有効になると、この警告はエラーログに書き込まれなくなり、かわりにこのタイプの警告 50 件ごとに、`The last warning was repeated N times in last S seconds` という注記がエラーログに書き込まれる。最近 50 件のこの警告が 50 秒以内に発生している限りこの動作が続き、警告がこのしきい値を下回った時点で警告はまた通常どおりに記録されるようになる。

この問題の修正によって、これらの警告が MySQL クライアントに報告される状態は変わらず、警告を生成するステートメントごとに警告は引き続きクライアントに送信される。この修正で、ステートメントベースログのステートメントの安全性を決定する方法も変わらない（Bug #11759333、Bug #51638）。

参考：Bug #11751521、Bug #42415 も参照。

- **レプリケーション:** レプリケーションスレーブを MySQL 5.5.18 以降にアップグレードした後で、クエリキャッシュを有効にすると、スレーブでエラーが発生した（Bug #64624、Bug #14005409）。
- `gcc` 4.7 でサーバがビルドされなかった（Bug #14238406）。
- `RPAD()` の特定の引数で `uninitialized variable` 警告が発生する可能性があった（Bug #14039955）。
- `test` データベースに `.empty` という名前のファイルがあるため、このデータベースを削除できなかった（Bug #12845091）。

- プライマリ以外のインデックスに対するレンジスキャンを使用して実行する必要があり、ファイルソートを使用しなければならない複数のサブクエリで、最初のサブクエリしかレンジスキャンとして実行されなかった。それ以降のサブクエリはフルテーブルスキャンとして実行され、パフォーマンスが低下していた (Bug #12667154)。
- サーバによってカウントされる特定ホストからの接続エラーの数は定期的のリセットされ、[max connect errors](#) に達することがなかったため、無効なホストが接続を試行してもブロックされなかった (Bug #11753779)。

参考: Bug #38247、Bug #43006、Bug #45584、Bug #45606 も参照。

- [ARCHIVE](#) ストレージエンジンによるファイルアクセスが実装されていなかったため、パフォーマンススキーマテーブルに表示されなかった (Bug #63340、Bug #13417440)。
- アカウントにゼロでない [MAX_USER_CONNECTIONS](#) 値がある場合、その値が優先されないことがあった (Bug #65104、Bug #14003080)。
- ファイル書き込みエラーが発生した場合に、[mysqlbinlog](#) がエラーコードなしで終了した (Bug #55289、Bug #11762667)。
- [CONCAT \(\)](#) を使用して [LIKE](#) パターンマッチのパターンを作成すると、メモリが破損しマッチングが失敗する可能性があった (Bug #59140、Bug #11766101)。
- OpenSSL で受け付けられる有効な SSL 証明書を yaSSL が拒否していた (Bug #54348、Bug #11761822)
- [SELECT](#)、[DROP TABLE](#)、[KILL](#)、[SHOW ENGINE INNODB STATUS](#) の組み合わせを実行すると、セッションがデッドロック状態で終了する可能性があった (Bug #60682、Bug #12636001)。
- [mysqldump](#) は、ダンプファイルを再ロードするとエラーが発生するような順序で、依存するビューやテーブルをダンプする可能性があった (Bug #44939、Bug #11753490)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。